

JaSST'16 Tokyo

E5) テストのマネジメント
パネルディスカッション用資料

2016年3月9日

東 弘之
(Azuma Hiroyuki)

ポジショントーク: 自己紹介

氏名	東 弘之 (Azuma Hiroyuki)
所属	株式会社ベリサーブ
経歴	1999年 (株)CSK(現SCSK(株))に入社 2001年 ベリサーブに転籍 2016年 現在に至る
	<ul style="list-style-type: none">✓ 各テストプロセスを地道に経験✓ お客様の業態・品質の考え方も様々経験✓ 弊社内研究会で肝を磨く。✓ 顧客組織の品質向上のサポート(現在)

ポジショントーク: プロジェクトを始める時に最初にやること

私は	現行機を買って使って楽しむ。
理由	相手を知る。 そして好きになる。

お題1:遅れがちな計画、何を重視？

私は	当初の計画・継続的で適切な計画修正
理由	<p>プロジェクトが進むにつれ、 確度の高い情報が増加する。</p> <p>論理立った(筋の通った)計画と的確な状況 把握がなければ適切な計画修正を行えない。</p> <p>把握する状況は、テスト活動状況だけでなく、 開発状況やソフトウェア品質状況も含める。</p>

お題1:補足(計画修正の視点)

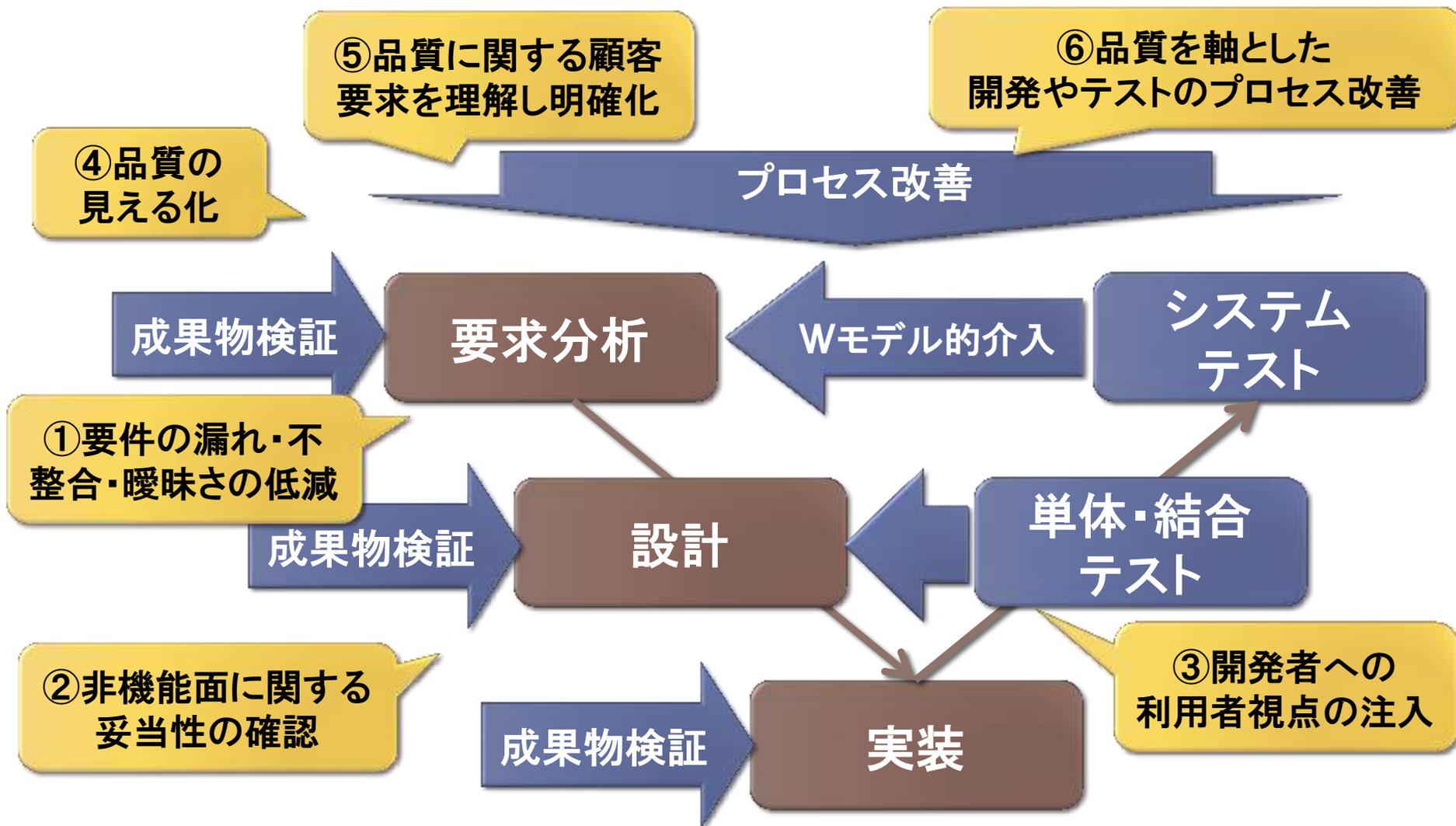
- ✓ 4つの視点で計画変更・計画修正の方向性を決める。

	確認の対象	当初の計画で妥当かを確認する事柄	確認方法例
開発側の質	① 開発成果物	ソフトウェアに内在する欠陥の予測	検出された欠陥の内容や原因、傾向(密度や分布)、作り込み工程などから、潜在欠陥を推測し直す
	② 開発力	欠陥収束力の予測	要件や仕様の変更内容・度合いや、プログラム修正の確かさなどから、欠陥収束度合いを推測し直す
テスト側の質	③ テスト成果物	テスト戦略・テストケース	テストケース外検出欠陥を基に、ケース漏れ有無、漏れ工程/原因から、テスト戦略・ケースを見直す
	④ テスト力	テスト実施プロセス・ルール・体制	判定結果・不具合票などの質を開発者とのやり取り内容やスピードより求め、ルールや体制を見直す

お題2-1:理想のテストマネジメント像

私は	品質の作り込みに貢献できるようになりたい。
理由	<p>テストの質向上は、テスト対象の品質をより正確に知ることに貢献できる。 しかし、品質向上の全要素ではない。</p> <p>顧客の望む品質を理解した上で、上流成果物やプロジェクトの質も高め、結果としてテスト対象の品質が高まるようなテスト活動を、バランスを取りながら進めて行きたい。</p>

お題2-1:補足(品質の作り込み)



お題2-2:そこに向かって何をしているか

事柄

- ✓ 初期テスト計画時の想定確度を高めたい
 - 計画の確度を上げる方法の検討
 - 経験を積む(未知のリスクを減らす)

- ✓ 上流成果物の質を高めたい
 - 要件定義や設計の技術習得
 - 上流成果物の質を測る方法
 - 上流工程のフェーズレビュー参加